

カガヤキ

No.42(2019.2.15 刊行)、広報委員会編集

茨城県立図書館発行
禁複写転載©広報委員会

特別企画

上條哲氏追悼



上條哲氏(2018年12月18日逝去
(享年89歳)、元会長、広報G・児童
G・対面朗読Gの各グループ委員、写
真は通信紙No.20から転載)

ボランティア歴70年の秀才

広報委員会
桜井 淳

上條哲氏は昭和4年(1929年)生れの享年
89歳であった。経歴(都立日比谷高校卒、
中央大学法学部卒)や職歴(第一勧業銀行)な

どから総合的に評価すれば、当時の高校進
学率約25%や大学進学率約5%であること
からして、エリートコースを歩み続けた秀
才(brilliant person)と言える。

ボランティア歴

上條氏は、通信紙No.30(2016年)におい
て、「ボランティア体験68年」と題し、
ボランティアを中心とした人生について、
記している。オリジナリティが高く、中身
が濃く、一般性があり、単行本にできる価
値を有する。

上條氏のボランティア歴を略記すれば、
・少年時代から社会人までのボランティア
・茨城県立図書館ボランティア
・水戸聖ステパノ教会ボランティア(プロ
テスタント系 Church of England)
・茨城県央高齢者百人委員会委員
・水戸市内の社会福祉施設ボランティア
など、活動分野が広範囲にわたる。

通信紙No.1-24において、No.2, 3, 4, 5,
6, 7, 9, 13, 14, 15, 16, 17, 19, 20, 23にわ
たり、記事を執筆しており、No.1-24の
66%に達し、通信紙の発案から運営や執筆
まで携わり、まさに、通信紙の育ての親で
あった。

新しい広報委員会での役割

広報委員会は、運営機能を失い、H26年
度(2014年度)の活動は、完全に、休止状
態であった。上條氏は、引き継ぎのため、
ひとりだけ残った。

私がボランティアに加わり、H27年度
(2015年度)からの新たな広報委員会の発足

にあたり、最初の会合において、役割分担や編集方針などを話し合った。私が現役の茨城新聞社客員論説委員であったため、委員長を担当した。通信紙は、県立図書館HPで公開しているため、文章表現や記事のオリジナリティなどを高め、質的向上を図ることにした。

委員会運営においては、上條氏のそれまでの知識と経験が生かされ(県立図書館ボランティアの歴史や特性や人間関係など)、わずか1年間の活動のみで、機能を回復することができた。

会合において、上條氏とは、厳しいやり取りも行った。上條氏は、年齢の割には、社会の平均的思考法から離れておらず、それが可能だったのは、広範囲の活動分野において、多くの人達との会話のためであろう。

水戸聖ステパノ教会での説教

水戸聖ステパノ教会(愛恩幼稚園を併設)は、プロテスタント系であるものの、カトリック系の良い点も生かしている(ステパノとは、ギリシャ語であり、キリスト教の最初の殉教者の意)。

上條氏は、時には、牧師(カトリック系は神父、プロテスタント系は牧師、外人のそれらは宣教師)に代わり、「説教」(『聖書』の解説、sermon)を務めていた。仏教の「法話」(仏典の解説)やキリスト教の「説教」は、誰にでもできることではなく、生半可な理解では、信者の共感を呼ぶような良い話ができない。『聖書』を何度も読み直さなければならない。

上條氏と『聖書』やキリスト教について

話す過程において、それらを良く理解できていることが分かった。と言うのは、私には、東大大学院人文社会系研究科で、「比較宗教学」(ユダヤ教、ヒンドゥー教、仏教、キリスト教、イスラーム)と「宗教社会学」の研究歴や曹洞宗禅僧としての修行歴などがあったためである。私の質問に的確に答えていた。

『聖書』(the Holy Bible)(神ヤハウェ)には、『旧約聖書』(the Old Testament、神ヤハウェ)と『新約聖書』(the New Testament、「ヤハウェとイエスと聖霊」からなる「三位一体」の神)があり、前者は、ユダヤ教やキリスト教(神「三位一体」)やイスラーム(神アッラー)の聖典であり、後者は、キリスト教の聖典(「マタイ伝」などイエスの存在の証明)である。ただし、ユダヤ教には、タルムード(the Talmud)、イスラームには、コーラン(the Koran)と言うもうひとつの聖典が存在する。

キリスト教の「説教」では、他の神の定義にない特徴的な「三位一体」の定義が理解できていないと、『新約聖書』を語れない。世の中では、イエス・キリストと言うが、本当は、キリスト イエス(Christ Jesus)であり、「神としてのイエス」の意である。「マタイ伝」には、イエスを主(神)と呼ぶ場面が出てくる半面、イエスは、十字架にかけられた時、「父(ヤハウェ)よ、彼ら(イエスを罵倒した民衆)を許してください、彼らは何も(自身の罪さえ)知らないのですから」と語りかけ、すべての人達の罪を背負った。最後に、それにより、神ヤハウェと神の子イエスの関係が明確に表現されている。

『旧約聖書』は、神話・歴史・文学・人

生論(愛と慈悲と救済)を総合した哲学と思想の学術書である。『新約聖書』は人間の愛(慈悲と救済)を語っている。

上條氏は、県立図書館でのボランティアにおいて、たとえば、児童グループの活動において、表面には出さなかったものの、キリスト教の神のような精神で接していたのであろう。そして、水戸聖ステパノ教会の「説教」では、何のためらいもなく、素直に、人生の到達点を語りかけたのであろう。ボランティアは、人間が好きでなければ、何よりも人間が好きでなければ、務まらず、いわんや70年間も、務まらない。

ボランティアとは

ボランティアの語源は、ラテン語の自主参加を意味する「ボラント」から派生した「ボラント」をする人の意である「ボラント」である。

ボランティアの意味は、あくまでも、自主参加であり、無料奉仕と言う意味ではない。国内外のボランティアの中には有給で奉仕している例が多くある。

ボランティアは、他人のためではなく、自身のために行うものである。それは、一般論として言えば、徳(natural goodness)を高めるための行為である。

すべての人間は罪を犯した。何ひとつ罪を犯していないと思っているひとでも、日常生活の中の半分は、社会に、迷惑をかけ、半分は、恩恵をこうむっている。迷惑をかけることは罪なことである。

人間には、

- ・無限に深い罪を犯した者もあり、
- ・有限の深い罪を犯した者もあり、

- ・浅い罪を犯した者もあり、
 - ・罪は無限に小さく、徳がゼロの者もあり、
 - ・逆に、徳がわずかばかりある者もあり、
 - ・それどころか、より大きな徳を得ている者もあり、
- 多様複雑である。

ボランティアとは、仏教の六波羅蜜のように、自身の徳を高めるための行為であり、他人のためでなく、自身のためにする行為である。人生において、マイナスの徳だけであれば、それをキャンセルし、ゼロにするどころか、さらに高め、プラスにするため、すべての罪を浄化する行為である。人間として、最終的に、どこまで徳を高められるかが、人生の目的である。

徳を積むには、千波湖湖畔でゴミ拾いをするのも良いことであり、水戸駅南ペデストリアルデッキでゴミ拾いをするのも良いことである。誰かが見ているか否かは関係ない。他人から褒められることを期待してはならない。ただ、淡々と、自身の心を磨き、徳を積むために励めば良いことである。上條氏はそのようなことを実践した。

結びに代えて

上條氏は、家政婦がいた恵まれた家庭に生まれ、育ち、常に、一般の目の高さ以身を置き、考え、行動できた稀な人格や人徳などを備えた秀才であり、終始、愛と慈悲と救済の精神を貫き、生涯現役でボランティアに徹した。その業績を称え、ご冥福を祈りたい。

編集後記

ボランティアの作業内容をいくつかの考え方で分類することができますが、そのうちのひとつに、県立図書館でなければできない作業と、どこにいてもできる作業があります。

前者に該当するのは、書架 G、三の丸 G、児童 G、対面 G、録音 G であり、後者のそれは、郷土 G、外国語 G、広報 G です。

広報 G の大部分の作業は、web に、Wi-Fi(Wireless-Fidelity)で、アクセスできる PC があれば、国内外、どこにいても、できます。用件を E-mail に記し、もし、参考資料や写真があれば、添付資料として、送信すれば、すべて片づくのです。

依頼した原稿は、E-mail のテキスト文として送っていただくこともあれば、標準書式の Word 形式(社会の一般論として、普通、数枚、単行本 1 冊分ですと約 120-150 枚)の添付として、長い文章を送っていただくこともあります。

過去 4 年間の編集作業は、そのようにしてやってきました。ですから、web と PC を使いこなせれば、効率的に、何でもできます。

広報 G は、作業内容の客観性を担保するため、毎年、県立図書館のボランティア広報 G 担当者やボランティア事務局担当者に宛て、約 100 件の E-mail を送信し、作業を進めていますが、その半数は、通信紙を改善するためのやり取りであり、半数は、原稿依頼や原稿受信など編集上のやり取りです。

web での検索や E-mail 対応は、若年層ほどの確であり、手際も良く、うまく使いこなしていますが、生きた時代と web の発展時期を重ね合わせると、戦前か戦後の区分が、対応世代(前後生まれ)とそうでない世代(戦前生まれ)を分類することができます。

私は、web や E-mail や power-point など電子ファイル化に対応できた最も早い戦後世代です。

上條さんは、私よりも、ひと回り半、早い戦前世代でしたが、web 対応は、曲がりなりにも、できていました。上條さんは、良く勉強しており、時代へのキャッチアップが的確であり、それどころか、部分的には、リードしていた分野もありました。常に、高い意識や士気(morale)を持っており、積極的に対応していました。意識が高すぎて、時には、勇み足ではないかとさえ感じられることもありました。

上條さんが、県立図書館ボランティアとして貢献したことは、

- ・寄付金獲得(10 年間計 100 万円)、
- ・広報・児童・対面各 G の作業、
- ・通信紙の発行案、
- ・通信紙の原稿執筆、
- ・全体会合開催の提案、
- ・ボランティア室に各自整理棚の設置案、
- ・会長として 2 年間指導、
- ・新広報 G への引継ぎと指導、など。

県立図書館ボランティアとその他の社会福祉などのボランティアを入れれば、1 ヵ月の 26 日間は、ボランティア作業に費やしており、鉄人的ボランティア人生でした。上條さん！さようなら。(合掌)

桜井淳

【補足】編集担当通信紙

CY	No	HP 掲載	備考
H27	25	○	再発行優先版 H27 年度年次報告
H27	26	○	再発行優先版 H27 年度全体会 合報告
H27	27	○	モデル版 ボランティア論
H27	28	×	テスト版
H27	29	×	テスト版
H28	30	○	モデル版 ボランティア論
H28	31	○	モデル版 投稿規定作成 編集裁量範囲 掲載までの経緯
H28	32	作成中	ボランティア詳細データ収集中 特性分析 (多変数解析含む)
H28	33	○	モデル版 通信紙位置づけ
H28	34	手続中	モデル版 図書館論 ボランティア論
H29	35	×	テスト版
H29	36	手続中	モデル版 ボランティア論
H29	37	手続中	モデル版 ボランティア論
H29	38	○	モデル版 火災避難訓練実 施報告

H30	39	○	モデル版 H29 年度年次報告
H30	40	○	モデル版 県立図書館現状 ボランティア論 未来図書館論
H30	41	○	モデル版 H30 年度ボラン ティア研修会実 施報告
H30	42	○	モデル版 上條哲追悼企画
?	43	準備中	H30 年度年次報告
?	44	企画中	ボランティア論

注 1) 「再発行優先版」とは内容より再発行優先。

注 2) 「モデル版」とは標準化できる良い内容。

注 3) 「テスト版」とは意見を聞くための試験版。